

## は じ め に

甲府市立相川小学校長 山坂 洋

科学技術のめざましい発展、情報化の進展に伴うグローバル社会、それを取り巻く急激な構造変化は、これまで以上に、私たちには予測もつかないスピードで将来の人間の働き方、生き方をも変えようとしています。新学習指導要領が発表されたのは、社会の中でそれらの変化が大きく起きうる2020年～2030年にかけての社会を見据えたうえでの教育の変革であろうと思われま

す。新学習指導要領では、新しい学びとして、「主体的・対話的で深い学び」（いわゆるアクティブラーニング）が位置づけられ、本校では昨年度「主体的・対話的で深い学び」を目指して校内研究を進めました。今年度は、研究テーマを「進んで考え 豊かに表現する子どもの育成」、サブテーマを「外国語教育における言語活動を通して」と設定しました。理由は、新学習指導要領の求めるものにアプローチしていくことは昨年度も、今年度も変わりませんが、本校が平成31年度にある「全国小学校英語活動実践研究大会山梨大会」の授業公開校になり、研究の重点を外国語にシフトする必要があったからです。

外国語または外国語活動を全校で研究するとともに、新学習指導要領へのスムーズな移行を研究・実践するべく、日課表の見直し・行事の見直しも授業研究と合わせて積極的に行ってきました。授業時数増に対応するため、大きく今までは変わらざるをえず、来年度の実施の成果と課題いかんによっては、来年度末までに大幅な修正を行う必要も出てくると思います。

外国語の授業実践という面で見ると、外部から指導助言者を呼んだ3つの研究授業と、それとは別に3年生以上の全クラスで、年間2回以上授業を見ていただき指導助言をいただく地域ボランティアとして、元中学校英語教師の先生に協力してもらったおかげで、本校の外国語の授業力は大幅に上がりました。まだまだ課題は残っていますが、徐々に教師の不安感も取り除かれつつあります。

結びに、本校の研究のために貴重なご指導・ご助言・資料の提供等いただいた多くの皆様方のおかげで本校の研究が推進できたことに、心より感謝を申し上げます。